



episode.12

ヤクタネゴヨウは天然木

話し手 屋久島森林生態系保全センター

ふるいち しんじろう
古市 真二郎さん (昭和37年3月21日生)

聞き手 鹿児島県立屋久島高等学校 1年

日高 煌陽 日高 幸成
田原 琉愛 大門 露
備 隆太 岩川 岳斗

「ヤクタネゴヨウについて」

ヤクタネゴヨウは島西部の国割岳っていうところに多く分布しているんですよ。それ以外にも、安房に近いだったら高平岳、モッチョム岳にも10本から50本くらい。本数で言ったら、屋久島に約2,500本あって、隣の種子島に約300本あって聞いてます。寿命と大きさについてなんですけど、大きさはですね、現存する一番大きい木で直径2メートルちょっと、高さで言ったら30メートル、寿命は種子島の資料館にあるやつは推定900年で、幹の周囲は12メートルとされています。

多くのヤクタネゴヨウは植えたんじゃないんで天然木です、自生っていうことです。植えたのは100本くらいで、目的は明確で種子を取るための採種園をしています。使えるようになれば建築材にもなるかもしれないです。

「ヤクタネゴヨウの性質」

普通のマツとの違いは、葉っぱを見たらわかるんですが、ヤクタネゴヨウは5本の葉が出ています。それが普通のマツとの大きな違いです。マツはマツノザイセンチュウにより枯れることが多く、最近ではヤクタネゴヨウにも被害が及んでいるんですよ。枯れたら葉っぱが赤くなるでしょ、あれは紅葉してるわけじゃないんですよ。ヤクタネゴヨウは昔はいろんなところにあったんですよ、進化の過程で、競争に負けてどんどん衰退して行ってこっちだけに残っているんですよ。



「ヤクタネゴヨウの良さ」

盆栽にできないこともないんですよ、植えて育てれば木材としてもいろいろ使えると思うんですけどね。あと匂いがいいですね。自生してるものは手入れはしなくていいですね。植えたものは雑草が生えてくるので手入れが必要。普通の山にスギを植えるのと同じなので、ヤクシカに食べられないように保護柵をつくらないといけないです。

「保全活動をしている理由」

私は種子島で生まれ育ちましたが、森林管理局の仕事に就き国有林のある地域をまわり、最後の勤務先がここ屋久島になりました。屋久島は平成5年に世界自然遺産に登録されたから、森林全体を保全していきましょうという大きな契機がありました。屋久杉がメインとなるんだけど、他にもやっぱりいろいろな植物があったりするわけだから、それをしっかり保全していかないといけないっていうところが理由の一部かな。保全活動で大変なことは松くい虫の駆除ですね。

